

スーダンにおけるイラストレーターの現状と子どもたち



アラエルディン・エルジズーリ・ナイム (スーダン)
画家・デザイナー・造形作家

「皆 (全てのアーティスト) が、創造力の源は幼年期の創造性に遡ることを理解しているというわけではない」

スザンヌ・オステン*

子どもの文化や文学の分野におけるスーダンの最も重要な近代的経験、すなわち絵本の発展は、欧州、レバノン、エジプト、その他の諸国のように個人の努力によってなされたものではありません。スーダンにおける絵本への取組みは、英国による植民地支配の時代に計画・確立された教育制度に端を発しています。この教育制度は3つの限定的で短絡的な目標、例えば少数の若年労働者をごく低レベルの公職に就かせるといった目的によって狭められていましたが、その後半世紀を経た後によりややく、出版社やスーダン初の児童書専門の「教育出版社」創設の流れに乗って、制度の質的变化に向けた取組みが開始されました。この教育出版社からは学校などに教材として児童書が配られるようになりましたが、これには子どもの興味を引くために世界の伝説やスーダンの民話から取った話の挿絵を書くことになったイラストレーターの尽力もありました。



自宅で子どもたちにスーダン民話の読み聞かせをする筆者

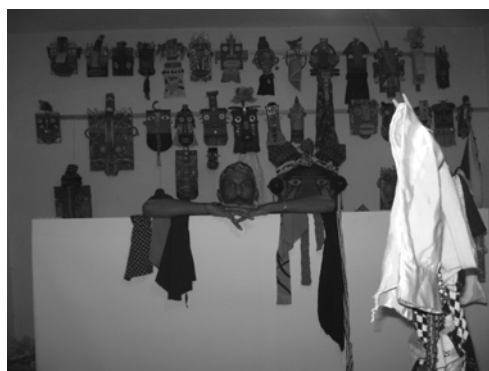
スーダンの教材としての児童書は、上述の近代的な教育施設の出現と深く関わっています。児童書は今も、学校における近代的な教育プロセスの先端に位置づけられています。1940年代から教育出版社などの出版社を通して続けられてきた児童書普及に向けた何世代もの努力は、スーダンだけでなくアフリカ大陸における基準ともなっており、「スーダンは児童文学の経験が長く、様々な教訓を得ているので、今後はその理解を深めるためにも子どもの文化に関する研究を行う必要がある」とされています。(注1)

スーダンでは、イラストレーターやデザイナー、手描きのアーティストが子どもの文化において果たす役割、特に装丁やイラストの能力を駆使して芸術的な方法で子どもに科学や文学の知識を広めるうえで果たす役割の重要性を、多くの人々が理解しています。ですがそのためにイラストレーターは文章の作家以上に努力しなければならず、また創造性も持ち合わせていなければなりません。それ故に、イラストレーターが自由に話を選び、自らの経験や美

的センスを駆使して挿絵を書いた場合に、最も優れた児童文学が生まれるのです。

スーダンでは、子ども向けのストーリーを選ぶ過程にイラストレーターを参加させることによって成功を収めた実例が多数あります。^(注2) 例えば近代の歴史において 20 世紀の前半に遡ると、「スーダンでは出版社のみが芸術大学の卒業生その他を雇用し、スーダンの文化や労働の歴史のなかでこの新たな職業—すなわちイラストレーターの仕事に携わっていた」のです。^(注3)

出版社の果たす役割はそれだけに留まらず、この分野のパイオニアと言える人々、啓蒙された作家とアーティスト（イラストレーター）を世に送り出すという貢献をしていました。彼らは多数の絵本を構成し、装丁し、出版しました。例えば、Jan Piere Greenlaw

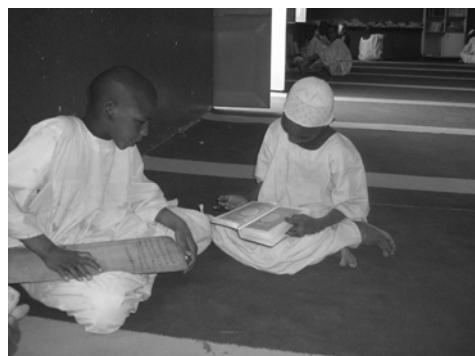


アトリエにて

(ジャン ピエール グリーンロウ)、Ibrahim Daw Elbait (イブラヒーム ダウ エル・バイト)、Saeed. A. Elgadal (サイード A. エル・ガダル)、Abd Elrazig Abd Elghafar (アブドウル ラジーグ アブドウルガファル)、El Arrifi (エル・アリフィ)、Adam Isaah (アダム イサーフ)、Sharhabeel Ahmed (シャルハビール アハマド)、Grizilda Eltayeb (グリジルダ エル・タイプ)、Mubarak and Yousif Bilal (ムバーラク and ユーセフ ビラール)、Ahmed Hamid Elarabi (アハマド ハミード エル・アラビー)、Essam Abd Elghafar (イサム アブドウル ガファル)、Ali Abd Allah (アリー アブドゥッラー)、Abd Elbaset Elkhatim (アブドウル バーセト エル・ハティーム)、Abd Allah Bola (アブダッラー ボラ)、Khalaf Allah Abood (ハラフ アッラー アブード)、Kosta (コスタ)、Saif Badae (サイフ バダエ)、Adil Elmahy (アディル エル・マフイ) などです。さらに彼らには次世代のデザイナーやイラストレーターが続きましたが、国家による文化の軽視や特に児童書をめぐる出版事情の悪化から、この素晴らしい流れは退行を余儀なくされました。過去半世紀にわたって文化の分野の戦略的な発展を支えてきた公的機関の役割の重要性が低下する一方で、イラストレーターの数は増え続け、彼らは児童書のイラストではなく、Elsebian (エル・シブヤーン) (意味：子供)、Elbahith (エル・バヒス) (意味：研究者)、Elsageer (エル・サギール) (意味：子供)、Eljeel (エル・ジール) (意味：世代)、Elkibar (エル・キバール) (意味：大人)などの雑誌のイラストを描くようになりました。こうした雑誌にはミッキーマウス、スーパーマン、バットマンや、その他アメリカのウォルト・ディズニーの漫画を模した記事や漫画が掲載され、これをきっかけにスーダンの多数のアーティストの絵本に関する経験、才能、夢が外国に流出するようになりました。

スーダンの多数のイラストレーターが、野間国際絵本原画コンクールに 1978 年の第一回から参加しています。スーダンはこれまでに、次席を 1 回、グランプリを二回受賞しており、合計で 11 人のスーダン人がこのコンクールで受賞しています。これ以外にも、スーダ

ンのイラストレーターに自らの才能を外国で披露する機会が、フランスの出版社である Grandir から与えられました。この出版社は、スーダン人が装丁し、挿絵を描いた約 30 冊の本を欧州の子供向けに出版しています。例えば Abd Allah Mohammed Eltayeb (アブダッラー モハンマド エル・タイプ)、



伝統的なスーダンの学校で読書をする子どもたち

Hassan Ali Ahmed (ハッサン アリー アハマド)、Salah Elmur (サラーフ エル・ムール)、Fathy Mohammed Othman (ファトヒー モハンマド オスマン)、Hassan Mohammed Musa (ハッサン モハンマド ムーサー) などがおり、20 冊を超える本が装丁されています。外国で出版されたスーダン人イラストレーターの本のうちの 2 冊が野間国際絵本原画コンテストにおいて、その優れた装丁を評価されて賞を獲得しました。これらの本は Hassan Ali Ahmed (ハッサン アリー アハマド) が装丁しエジプトで出版されましたが、スーダンの研究センターが同センターの出版するその他の児童書と同様に、そのための資金を提供しています。

様々な事情や状況によって、多くのスーダン人アーティストはスーダン以外の子どもたちのために作品を制作せざるを得ないわけですが、一部のアーティストはまだスーダン国内に留まっており、この停滞期においても児童書を発行しています。

ですが、国内外の状況には皮肉とも思えるような大きな違いがあります。スーダンの国内で発行されている本の美的レベルや数を外国の基準と比べると、明らかに国内の本は美的価値を欠き、その描写の方法や手段は、児童書に必要なレベルにまで達していません。たしかに児童書は大判で出版され、その高価な価格に値するだけの素晴らしい紙を使って印刷されていますが、1950 年代の中期にスーダン国内で安い紙に印刷されていた小さな本 (約 13×15 センチ) と比べると、その内容は後者の方が充実しており、価値ある目標が掲げられ、美しい装丁とイラストで彩られていました。こうした「ミニ本」はスーダンの生活環境をよく反映しており、



絵本の表紙: Hassan Musa (ハッサン ムーサー)、「スーダンのスフィの物語 1」スルタンの息子の最高の友人

またスーダンの子どもたちの教育、啓蒙、美的センスの育成に大きく貢献するものでした。スーダン国内よりも国外において、スーダンのイラストレーターは数多くの児童書を (外国語ですが) 作成しており、そうした本には素晴らしい美的価値が認められ、この児童書という特別な分野にふさわしい手段と表現が駆使されています。その制作のための費用にはスーダン国内の公式の機関と国外とでは格段の差があり、国内では国外よりも多くの資金を使って制作できるにもかかわらず、多



Sharhabeel Ahmed (シャルハビーール アハマド)、Ahkdar Owzaz (アフダル オザーズ)
左: 絵本の表紙 右: イラスト



くの場合に資金が無分別に浪費されていたり、そうでなければ出し惜しみされたりしている状況です。

スーダンのイラストレーターが直面している困難は、彫刻、絵画、映画、演劇など、その他の芸術の分野にも等しく存在しています。概してスーダンには、文化全般の強固なインフラがなく、子どもの文化を重視する姿勢が（特にこの20年間は）欠如しているなど、文化を脅かす状況があり、その結果として多くのスーダンのアーティストが自らの造形美術の才能を開花させることのできる仕事の機会を求めて国外へと流出しており、また国外で活躍するスーダンのアーティストの中では造形美術家が占める割合が最も高いとされています。^(注4)

こうした状況下、政府が文化に果たす役割は低下しており、既にかかなりの退化が見られます。現在スーダンの首都には児童育成に役立つ施設は2つしかなく、また4000万人を超える人口の67%は、100万平方マイルに及ぶ国土のうち、農村地域に暮らしています。

こうした環境において、未成年を対象とする創造的な教育の哲学は途絶え、母親による授乳の文化や学校での文学の授業が失われ、教育制度が崩壊する中で、前述の教育出版社は後退を余儀なくされており、随時スーダンの子どもの絵本を出版していたその他の出版社も衰退し、図書館、雑誌、書物の役割が低下し、過去の読書習慣もスーダンでは廃れつつあります。ですがかつてこの国は知識や読むことを愛し、アラブ諸国において次のように言われていたのです。「エジプト人は書き、レバノン人は印刷し、スーダン人は読む」と。

こうした事態に対応して、現状に満足しない一部の市民の間から、外国との格差を縮小し、スーダン人の子供たちが被っている損害を埋め合わせようとする民間の動きや活動が生じており、その中でも特に重要なものは、以下のもで行われています。

- オムドゥルマンの Abdelkarim Mirghani (アブドゥルカリーム ミルガニー) カルチャーセンター
- Nafaj (ナファジュ) グループ
- オムドゥルマンの子供のためのアートガーデンワークショップ
- スーダンの研究センター
- スーダンの子供たちの文学グループ (スーダンの作家である Abdelgader Mohammed Ibrahim (アブドゥルガデル モハンマド イブラヒーム) が創設した団体で、絵本の出版を行い、創設者の計画した200冊の本の出版を目指しています。前述の状況からこの計画の実現は難しいとされていますが、Ibrahim (イブラヒーム) は当初出版予定の40冊のうちの13冊の本を既に書き上げ、自らの資金で制作、出版しています。) ^(注5)

上記の最後の記述は本文の内容を要約するものであり、絵本の制作においてスーダンが直面している問題を明らかにしています。

注

*Erling Ericson, Animate IT 45 ページ。

以下は全てアラビア語で書かれ、出版されています。

- (1) 「貧困の書：教育プロジェクトとしての子供の文化」
Hassan Mohmmed Musa (ハッサン モハンマド ムーサー) 博士作
- (2) 「スーダンにおける造形美術関連の出版について」 著者作
<http://sudanartists.org/ala-algizouli.htm>
- (3) (1) と同じ
- (4) Khartoum Newspaper (ハルツーム紙)、Mohammed Ali Ibrahim (モハンマド アリー イブラヒーム) 著の「クリエイティブミグレーション」に関する記事、
2001年8月15日付け
- (5) Abdelgader Mohammed Ibrahim (アブドウルガデル モハンマド イブラヒーム) 著の
「民話と学校図書」、Elasahafa Newspaper (エル・サハーファ紙)、
Number 5549、5 ページ